

革新都政をつくる会が総決起集会 新しい東京 へ心一つに

鳥越候補「改憲の流れ断ち切る」

都知事選

しんぶん赤旗 2016年7月20日(水)

東京都知事選（31日投票）で鳥越俊太郎候補＝野党統一＝の勝利を必ずと19日、革新都政をつくる会は台東区で総決起集会を開きました。会場いっぱいの参加者を前に、鳥越候補が決意を表明し、日本共産党の小池晃書記局長があいさつしました。



（写真）総決起集会参加者の激励に応える鳥越俊太郎都知事候補（中央）、中山伸・革新都政をつくる会事務局長（左）、小池晃書記局長＝19日、東京都台東区

鳥越氏は、昨年4月、作家の澤地久枝さんと話し合っって集団的自衛権の行使容認に反対する集会を開いたことを紹介。「安倍政権は戦後最悪の内閣。日本の人口の1割が住む首都東京で、（憲法改悪への）流れを断ち切って安倍政権の思い通りにならない意思を示そう」と訴え、参加者は大きな拍手でこたえました。

鳥越氏は、納税者意識を持って税金を正しく使う都政を進めると約束。さらに「高齢者問題や介護、医療が都民の一番の心配ごとだ。これが、都知事が最初に考えるべき問題だ」と述べ、介護施設の増設と職員の待遇改善、保育園待機児の解消を進めると強調。「都民と行政が心をつ一つにして仕事をしていく」と力説しました。

「東京都は平和と憲法を守る」として「非核都市宣言」を行い「核兵器のない世界」「原発はいらない」の思いを世界に発信すると表明。「ともに新しい東京をつくりましょう」と呼びかけ、大きな拍手に包まれました。

小池氏は、都知事選について、都政を変え、参院選で広がった野党共闘の流れをさらに大きくし国政を変える絶好のチャンスだと強調。▽「政治とカネ」の問題にメスを入れる▽大型開発優先から都民の暮らし・福祉優先の都政に転換する▽改憲を許さない都民の意

思を示すなどの意義を語り「鳥越さんの勝利で都政を都民の手に取り戻そう。改憲を阻止し、憲法を暮らしに生かす都政を実現するために必ず勝利しよう」と話しました。

中山伸事務局長が行動提起を行い「総力をあげて宣伝、組織戦を展開する」として▽街頭演説の成功▽構成団体と構成員の総決起▽職場・地域で無数に小集会▽情勢を変える大宣伝—などに取り組もうと呼びかけました。

女性や青年など各分野や地域の代表が発言しました。

都知事選 鳥越候補訴えに共感

平和と憲法守る 非核都市宣言を 原発依存しない

熱気の渋谷大街宣



東京都知事選（31日投票）で、4野党統一候補の鳥越俊太郎候補は18日、渋谷駅ハチ公口前（渋谷区）で街頭演説し「日本の首都である東京を平和と憲法を守るまちにしたい」と述べ、非核都市宣言をあげることを約束しました。

この日は「渋谷大街宣」と銘打ち、推薦する野党各党の国会議員や都議、区議、首長、大学教授らが次々とスピーチしました。

直前の参院選で、長野選挙区の野党統一候補として当選した杉尾秀哉新参院議員は「長野県では、市民連合やママの会、9条の会など市民の皆さんの応援が、私の勝利に結びついた。この流れを東京にも波及させよう」と呼びかけました。

「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」の大沢真理東京大学教授は「憲法を暮らしに生かし、都民・国民の生活を守る政治を行えるのは、今の候補の中でどう見渡しても鳥越さんしかいない」と訴えました。

会場周辺には多くの聴衆がつめかけ、鳥越氏が登場するとカメラやスマートフォンを向ける若者の姿が目立ちました。

鳥越氏は、都民の声、とくに社会的に弱い立場の人たちの声をよく聞き、都政に生かす

決意を表明。そのうえで「ここには若い方が多いが、あなた方が社会を支える40歳前後になるころ、東京は膨大な数の介護を必要とする人たちを抱える時代に入る。その時になってからでは遅い。今から介護の施設をつくり、介護士の給与をあげていくべきだ。人々の暮らしを東京都から変えていこう」と熱く語り、大きな拍手と歓声に包まれました。

鳥越氏は、安倍政権が再稼働推進の動きを強めている原発・エネルギー問題にふれて「再生可能エネルギーを導入して、原発に依存しない東京をつくる」と表明しました。

訴えを聞いていた会社員の男性（29）は「非核都市宣言を表明したことは重要だと思う。首都東京が世界に向けて平和のアピールを発信することは、日本にとっても、アジアにとってもプラスになります」と話しました。

会社員の女性（31）は「鳥越さんの『弱い立場の人の声を聞く都政にする』との訴えに共感しました。税金の使い道にしっかりメスを入れてほしい。弱い立場で苦しめられている人を助け、立ち直れるようにしていく都政に期待します」と述べました。

日本共産党の吉良よし子参院議員、民進党の蓮舫参院議員、社民党の石川大我豊島区議、保坂展人世田谷区長、歌手の森進一氏も応援に駆け付けました。生活者ネットの西崎光子都議が司会を務めました。

元ニュースキャスター・新参院議員 杉尾秀哉さん 正義と信念の人

18日、東京・渋谷駅の前広場であった鳥越俊太郎都知事候補の街頭演説に、元ニュースキャスターで、参院長野選挙区で野党統一候補として当選した杉尾秀哉新参院議員が応援演説に立ちました。杉尾氏は鳥越氏を市民の力で何としても都知事に押し上げようと呼びかけました。

テレビで何度も一緒に仕事をしたことがあるという杉尾氏は、鳥越氏を「ジャーナリストの先輩として人間としても尊敬する一人、正義と信念の人」と紹介。鳥越氏の名声を確立した埼玉・桶川のストーカー殺人事件での調査報道にふれて、警察権力をものともしない鳥越さんの活躍が、警察の捜査の怠慢を暴き、事件の本質に迫る見事なスクープにつながったとたたえました。

杉尾氏は、安倍政権がすすめる安保法制や憲法改定問題の動きを批判し、日本の平和国家としての歩みが足元から大きく揺らぎ始めているなか、「自ら関わるしかない」と強い決意で立候補した鳥越氏への支持を呼びかけました。

続いてあった鳥越氏と杉尾氏のミニ対談では、鳥越氏が「心の年齢は18歳です。この年になっても好奇心はいっぱいあります。若い人にも負けない」と述べ会場を沸かせました。



（写真）鳥越俊太郎知事候補（右）の応援スピーチをする杉尾秀哉新参院議員＝18日、東京・渋谷ハチ公前

鳥越さん勝利で憲法守ろう

国会議員会館前 雨中の総がかり行動

“市民の力で押し上げる”

「憲法擁護の知事誕生で、安倍暴走政治を東京からストップさせよう」と、「戦争法廃止！憲法改悪を許すな！総がかり国会行動」が19日、行われました。どしゃ降りのなか、衆参の国会議員会館前から国会図書館前まで4500人（主催者発表）の人波で埋まりました。

全国注視の東京都知事選で、野党統一候補としてたたかう鳥越俊太郎氏が駆けつけ、スピーチすると、大きな拍手と歓声が起きました。「みんなの力で改憲とめよう」とコールした参加者は鳥越氏と一緒に「みんなの力で東京を変えよう」と唱和しました。

政党からは、日本共産党の吉良よし子参院議員、池内さおり、畑野君枝、本村伸子の各衆院議員が参加し、小池晃書記局長があいさつしました。民進党の枝野幸男幹事長、社民党の福島瑞穂副党首があいさつしました。

小池氏は「都民の命を守るために、憲法を守るとものを言う候補を野党と市民の力で押し上げよう」と呼びかけました。

市民連合の山口二郎法政大教授は「都知事選は憲法を守るたたかいだ。鳥越さん勝利こそ憲法を守る最大の力だ」と述べました。

沖縄・東村高江での米軍ヘリパッド建設強行に反対するたたかいの報告がありました。

東京都北区の女性（68）は「都知事候補で原発ノー、安倍政権を痛烈に批判しているのは鳥越俊太郎さんだけ。市民目線のところがいい。この知事選で首都・東京から安倍政権打倒、憲法守ると声を上げたい」と語りました。



（写真）戦争法を廃案にと集まった人たちとともに訴える鳥越俊太郎都知事候補（右端）＝19日、衆院第2議員会館前

鳥越候補「東京は平和と憲法守る拠点」

市民・野党一つに

都知事選

東京都知事選挙で野党統一候補の鳥越俊太郎さんの個人演説会と『「鳥越俊太郎を応援する市民センター」発足集会』が18日夜、東京都千代田区で開かれました。定員800人のホールは参加者でいっぱい。「なんとしても鳥越さんを都知事に」。会場では4野党の代表、自治体首長、著名人、勝手連をつくる市民がスピーチしました。

演説会 思い熱く

演説会も中盤に差しかかった午後7時55分。鳥越さんが会場に駆けつけ、後方から登場すると参加者から「鳥越、鳥越」の大合唱で迎えられました。演説は約15分間。演壇の前に立ち、立候補した思いや政策を訴えます。



(写真) 鳥越俊太郎候補(中央)を囲んで「都政を都民の手に取り戻そう」と決意する参加者=18日、東京都千代田区

「参議院選挙では、3分の2を自公などの与党勢力に取られてしまいましたけど、しかしその直後におこなわれた東京都知事選挙ではちゃんと旗を取り返したぞと、都民のみなさん、全国のみなさんにもお知らせしたい」「東京は平和と憲法を守る拠点。そういう都市であるべきだ」

演説会では、鳥越さんを推薦した野党4党(日本共産党、民進党、社民党、生活の党)のあいさつだけでなく、東京・生活者ネットワーク、新社会党、緑の党グリーンズジャパンの代表も参加し、紹介されました。

民進党の菅直人元首相(衆院議員)は「今回(野党統一候補を)まとめあげたのはみなさんの力。何としても勝ち抜きたい。党としてできることは何でもやるつもりです」と語りました。

「野党だけでは勝てません。市民と一つになって初めて勝てます」。あいさつした日本共産党の小池晃書記局長(参院議員)は強調します。「都政を変える絶好のチャンスです。野党共闘を確かな流れにするためにも全力で頑張ります」

著名人もマイクを握りました。「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」の山口二郎さんは「安倍政権に打撃を与える第一歩になる」と話します。

「絶対に勝たなければなりません」。作家の澤地久枝さんが訴えます。鳥越さんとは、40年来の友人です。「参院選の結果を見て、ここからスタートだと思いました。それが都知事選挙です」

評論家の佐高信さんは「今回のスローガンは『ストップ・ザ・安倍』だ。オリンピック利権とのたたかいでもある」と強調しました。

精神科医の香山リカさんは「野党統一候補として立候補するのはとても意義があること。多様な人が生活する街である東京で、憲法を大切にする鳥越さんを応援しましょう」と呼びかけます。

作家の鎌田慧さんは「政党ばかりが頑張るんじゃない。この選挙は市民革命です。大衆運動によって日本を変えていく。そういう決意の出発点として今回の選挙がある」と語りました。

自治体首長も鳥越さんにエールを送りました。

多摩市長の阿部裕行さんは「今日は自治体首長として来ました。すごい勇気をもって来ました。自分もジャーナリストの出身ですが、市長2期目。もう6年です。都内で初めて公

契約条例の制定、非核平和都市宣言をしました。やればできる」。

「野党が統一して候補者が一本化した。これは応援しないと」。世田谷区長の保坂展人さんが訴えます。保育園の問題など「声を聴く都政を取り戻してほしい」と要望。「(鳥越さんに)自治体、現場で起きていることを一つひとつ伝えながら、みんなで選挙を勝ち抜いていきましょう」と呼びかけました。

「応援する市民センター」発足

この日開設した「鳥越俊太郎を応援する市民センター」は、「4野党の選挙活動を後押しし、自発的に動きだした市民の活動と連携する情報センター的な機能を持った調整組織」です。

代表世話人を務める上原公子さん(元国立市長)が発足した経過を報告しました。「各地でさまざまな勝手連などができています。センターに登録していただいて情報をまとめるなど、野党4党とのプラットフォームとしてつくろうと思いました」と語ります。

同センターの事務所を新宿区内に開設。毎日、午前10時から開きます。選対本部との連携や、チラシの保管など「情報と物流の拠点にする」としています。事務所内では、会議や作業場所も確保するとしています。

「鳥越俊太郎を応援する市民センター」事務所は、東京都新宿区四谷2丁目11番。大村ビル5階です。

電話 080(4364)5499 ファクス 03(5683)3800 メール torigoe.center@gmail.com

「靖国」派集会で 小池 百合子候補

戦後教育を「自虐的」と攻撃

“自主憲法制定”主張

東京都知事選(31日投票)に立候補した小池百合子元防衛相が、2003年8月15日に「靖国」派が開いた集会で、「親殺し、子殺し」などは「自虐的な戦後教育」の結果だとする持論を語り、改憲などを主張していたことが、改憲派右翼団体「日本会議」の機関誌『日本の息吹』(同年9月号)の記事でわかりました。



(写真) 日本会議の機関誌『日本の息吹』

2003年9月号が掲載した小池百合子氏の「提言」

当時、自民党衆院議員だった小池氏は、東京・九段の靖国神社境内で開かれた「戦没者追悼中央国民集会」で、「国家への帰属意識や伝統への尊敬の念」などが失われると「国家は内部崩壊を始める」と主張し、当時社会問題化していた「親殺し、子殺し、少年による幼児殺し」を列挙。「家族に対する愛情なき人に国家への愛を求めるのは土台無理な話。これも自虐的な戦後教育の結果です」と決めつけています。

さらに、北朝鮮による日本人拉致被害なども示しつつ、「人権を声高に叫ぶ人たちほど、本当に守るべき人権は無視してきました」と決めつけ、「自前の憲法を有し、また教育基本法の改正に一日も早く取り組むことをお誓いしたい」などと表明していました。

日本の過去の侵略戦争は「アジア解放」の「正義の戦争」だったと主張する「靖国」派は、極東国際軍事裁判（東京裁判）が断罪した日本の戦争犯罪を否定する立場から、戦後の歴史教育を「自虐史観」「自虐的教育」などと攻撃し、戦後の世界秩序に真っ向から挑戦しています。「自虐的」との攻撃は、小池氏が「靖国」派と同じ歴史観の持ち主であることを示すものです。

自公が推す 増田 寛也候補

県知事時代に借金倍増で言い訳

原因のダム・港湾触れず

東京知事選で自民、公明が推す増田寛也氏は、岩手県知事時代に無駄な公共事業を進めて借金を2倍の1・4兆円に増やしたことについてホームページで言い訳しています。「切るべき公共事業を切ってきた」とするなどデタラメな内容です。

増田氏は、借金の原因として、東北新幹線（盛岡―八戸）の整備と岩手県立大の開設の二つをあげて、「将来に向けた投資」と釈明しています。

しかし、借金増加の原因はこの二つだけではありません。不要不急のダム建設、港湾整備、空港拡張など国やゼネコンのいいなりとなって財政規模を超えた公共事業を推進してきたことが原因です。

新幹線整備に関しても、盛岡駅西口複合施設建設によって財政を悪化させました。「無駄な投資をしたわけではない」（増田氏）どころか、無駄遣いをしてきたことは明らかです。

さらに増田氏は「行財政構造改革プログラムを策定し、財政健全化に道筋をつけ、最終年度でプライマリーバランス（基礎的財政収支）を均衡させた」と述べています。

しかし、「財政健全化」といっても、乳幼児医療費助成など県単独助成に負担金導入、県立病院の診療所化、高校統廃合など県民の暮らしを切り捨ててきたのが実際です。「均衡させた」と自慢できるものではありません。

不要不急の公共事業を進めて財政を破たんさせ、住民にツケ回しするのは、自公が進めてきた東京都政と同じです。失政に反省のない増田氏がオリンピック工事が行われる東京で同じことをやれば、岩手以上に大変な事態になるのは必至です。

野党統一と市民の共同の力で 首都東京から新たな歴史的情勢を切り開こう！

全日本年金者組合は、鳥越都知事誕生にむけ、連日のようにJR大塚駅で宣伝に総力を

あげています。全国からの支援で東京発の平和な日本を！みんなでつくる！

